

■アンケートに対する意見

高齢者福祉計画及び 介護保険事業計画策定委員会	
第2回 (R5.7.13)	資料1-3

No.	意見	回答	対応する現計画の施策
1	「お世話役」として参加してみたいかに対し、参加したくないが半数以上を占めている。いきいきした地域づくりを進めていくには、お世話役が重要だと思います。その理由を具体的に聞いてみたら対策も考えられるのではないのでしょうか。	次回アンケート時に、その理由も含め確認してみます。 一方で、参加したいと回答した高齢者が活躍できるように検討していきます。	【2-(2)生活支援サービスの充実】
2	一般高齢者問22、高齢者・介護者問20で、いずれも回答は「医療機関が身近にあること」が約67%となっている。医療機関と介護サービス事業所の連携は、ますます必要になってくる。 加古川健康福祉事務所で行った東播磨圏域医療・介護連携に関するアンケート結果では、入院時・退院時の病院とケアマネへの情報提供率やかかりつけ医、訪問看護師との連携状況など、さらなる連携の充実が必要と思われる。	在宅医療・介護の連携の充実にむけて取り組む必要があるため、委員の皆様には、計画の中で取り組むべきことについて、それぞれの立場からご提言いただきたいと思ひます。また、県の支援の下、医師会等と連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する必要があると考えています。	【4-(1)地域包括ケアの深化・推進、連携の強化】
3	・「無償・有償に関わらずしてみたい」「有償であればしてみたい」あわせて18.2%の方を、今後どのように抽出していくのか、地域でのゴミ出しのニーズは高いが29.8%活動してみたいとの結果とマッチングしていく仕組み。 ・特に独居の方は、電球の交換、インターフォンの故障、高いものをおろす等ちょっとした支援が必要な事例であり、上記同様マッチングできる仕組み作りが期待される。	ボランティアをしてみたいと考えておられる方と、必要とする方とを結びつける仕組みについて、検討したいと考えています。	【2-(2)生活支援サービスの充実】 【5-(2)ボランティア・NPOなどへの支援】
4	・「移送サービス」「外出同行」の狭間にある他(多)科受診の際の移動、診察室から会計、会計から薬の受け取り等の移動が不便と伺う。院内ボランティアの創設や、移送サービス・外出同行の延長上にサービス付与が望まれる。	ご指摘のとおり、切れ目のない支援の視点は重要だと考えます。今後、サービスを構築していく際には付随して考え、関係機関に働きかけていきたいと考えます。	-
5	・コロナ禍において、心身機能の低下、認知機能の低下が主観的にも客観的にも増加している事がわかる。また人との交流が低下したことから早期の発見が遅れ、発見時には増悪し、初期集中支援チーム員が介入する事例も散見された。キャラバンメイトの立場としては、①サロンなどの通いの場をサポートし、横のつながりを再構築していく、②各包括エリアを拠点とした地域の特性を踏まえうえで、メイト間の目標の設定、活動報告等情報交換を行い、サポーター養成講座の開催、ステップアップ研修を実施していく。	市としては、早期発見について、認知症早期発見チェック等を実施し、受診につなげていますが、地域内で早期発見できるように住民同士のつながりづくりは課題だと考えています。 ②については、市と地域包括支援センターとの連携を図りながらキャラバンメイト養成講座、ステップアップ講座等の事業を進めています。	【4-(2)認知症施策の推進・強化】

No.	意見	回答	対応する現計画の施策
6	<p>・前期計画はコロナ禍三年間に重なってしまい、ACPの啓発する機会や場が失われ、前回より「よく知っている」人が減少。一方CMは26.7%も上昇したことを踏まえ、①高齢者の集う場で啓発の機会を意識し、高齢者の特性、例えば欧米とは異なり、日本には「自己決定」「自立支援」の文化が浅く、後期高齢者には心に突き刺さってしまうことも見られるため、情緒面に触れるツールを活用し、普及啓発活動を実施。②CMにマイスター資格を付与し啓発する側の裾野を広げていく。③世代循環を目的に若い世代への啓発。④見守りや気軽に相談できる窓口といった活動が行われているさき協において、ACPの視点を紐づける。住み慣れた地域で、自分らしい生き方（逝き方）ができる町づくりを進めていく事はひいては誰も住みやすい町づくりにつながっていく。</p>	<p>住み慣れた地域で、自分らしい生き方（逝き方）ができる町づくりを進めるため、様々な方法を検討し、市と地域包括支援センターと連携を図りながら推進したいと思います。ご提案いただいたことをふまえて、計画に反映できるものから反映していきます。</p>	<p>【4 - (1) 地域包括ケア体制の深化・推進、連携の強化】 【5 - (1) 本人や家族の知識向上・技能習得のための支援の充実②】</p>
7	<p>「住み慣れた地域にある～多機能型の施設」が必要という回答が多いが、これをもって小規模多機能が必要というのは無理があるように感じる。この文面にあるようなデイ、ヘルパー、泊まりというサービスが必要という意味にとどまるのではないかと考える。ケアマネがかわる、デイを選択できない、一定額は必ず必要などについてふれられておらず不完全だと思う。「夜間や～できるサービス」をもって定期巡回というのも、同じように無理があると感じます。</p>	<p>ご指摘のとおり、アンケートの当該項目における回答者の意図として、必ずしも「小規模多機能型、定期巡回型」を指すものとは言い切れません。整備計画の策定につきましては、本アンケートの結果に限らず、要支援・要介護認定者数や介護給付費の推計データ等を用い、在宅サービスの介護需要を考慮した上で、必要数を整備していきます。</p>	<p>【3 - (1) 介護サービス基盤等の整備】</p>
8	<p>公的福祉の先行きを考えると、改めて二世帯同居が求められるのではないかと思う。住宅の支援も必要かと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、公的なサービス以外の生活支援も重要になってくると考えます。勤務形態やライフスタイルの多様性が進む中、二世帯同居での役割に代わる、見守り体制や助け合いの仕組みづくりを検討していきます。</p>	<p>【2 - (2) 生活支援サービスの充実】</p>
9	<p>アンケートでもわかるように当事者である高齢者のACP、認知症サポーターの認知度は、低いと思います。若い人向けに行くことも大切ですが、当事者である高齢者にもしっかりと知ってもらう必要があると思います。</p> <p>啓発活動をもっとするためには、加古川市が行う各種イベントにはコラボするなどして行っていくのはどうか。</p> <p>特に年代別に啓発する資料なども様々作成するのはどうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、ACPや認知症サポーターの認知度は低いと認識しております。高齢者へは、通いの場を利用した普及啓発を行っていますので、今後もさらに推進していきます。また、青年期・壮年期への周知啓発する機会も積極的に作っていきたく考えています。</p> <p>今後さらに推進していくために、ご提案にあるような取組も含めて検討していく必要があると考えます。</p>	<p>【4 - (2) 認知症への理解を深めるための普及啓発】 【5 - (1) 本人や家族の知識向上・技能習得のための支援の充実】</p>

No.	意見	回答	対応する現計画の施策
10	<p>問21、困った時の相談する相手は？</p> <p>民生委員への相談件数の少なさに改めて驚いた。相談相手がいないとの回答が、令和元年と比較すると半数に減少しているのに民生委員への相談が少ないのは、民生委員活動のPR不足なのか？</p> <p>民生への負担軽減も言われているが、住民に寄り添い相談を言えるようもっとPRする必要があるのでは。</p>	<p>アンケート結果より、相談先として、かかりつけ医に次いで地域の相談先である民生委員や町内会長等が多くなっており、民生委員への相談が少ないとは一概には言えません。ご意見をいただいたように、住民が相談しやすい相談先として民生委員活動のPRは必要であると考えます。</p>	<p>【2 - (1) 高齢者の見守り体制の構築】</p>
11	<p>ACPについて、一般高齢者と訪問看護師等の考えに差がある事から、考え方について広めていく工夫がいると思われます。</p>	<p>高齢者向け・若い世代向け・専門職向け等、対象者に合わせた普及啓発方法を工夫し、考え方を地域に浸透させていきたいと考えています。</p>	<p>【4 - (1) 地域包括ケア体制の深化・推進、連携の強化】</p>
12	<p>(ケアプランニングやケアの中でACPを実践できますか、できない理由はなんですかの設問の結果より)</p> <p>この結果より、対策が必要ではないでしょうか。</p>	<p>ケアプランニングやケアの中でACPを実践することで、希望に沿った将来の医療及びケアを具体化できると考えられますが、実践できない理由として、本人の納得や家族の理解が得られないことがあげられています。要介護状態になってからACPを実施するのではなく、元気な時から人生観や価値観等を話し合い共有するACPの普及啓発に努めたいと考えています。</p>	<p>【4 - (1) 地域包括ケア体制の深化・推進、連携の強化】</p>
13	<p>自分が病気、又は、家族が病気等にならないと、このような設問への話題にならない。地域で教育の機会があると思われます。</p>	<p>健康なときには、自分が何を大切にしているかといった価値観を意識せず生活していることが多く、生活の中で意思を共有するという意識があまりないのかもしれない。あらゆる機会を通して、ACPの普及啓発に努めたいと考えています。</p>	<p>【4 - (1) 地域包括ケア体制の深化・推進、連携の強化】</p>